

平成26年度畜産研究所の基本方針

I 基本方針

当研究所は、「岐阜県科学技術振興方針」（平成24年3月策定）に基づく研究開発を推進し、その研究成果の速やかな技術移転を進めることにより「ぎふ農業・農村基本計画」（平成23年3月策定）の目標達成に積極的に取り組みます。

特に、県民に対する安全・安心・健康な畜産物の提供と県内畜産ブランド製品の振興を最重点課題として位置づけ、関係機関と緊密な連携をとり、①生産性向上のための家畜の育種改良の推進 ②畜産新技術の開発 ③畜産環境改善を中心とした研究開発に取組み、その成果を踏まえた技術支援により県内畜産業の振興を図ります。

II 具体的な施策

1 研究体制

(1) 共同研究の推進

近畿大学との連携大学院制度による共同研究、産学官連携による共同研究等を積極的に推進し、質の高い研究実施体制の構築に努めます。

(2) 公募型研究への積極的な取組

これまでの公募型研究の取組実績を踏まえ、今年度も研究開発の迅速な推進を図るため、産学官連携の強化等により公募型研究に積極的に応募します。

2 重点化した研究開発の推進

(1) 家畜の育種改良の推進

1) 飛騨牛の育種改良

優良種雄牛の育種改良を推進し、「飛騨牛」の全国ブランドとしての基盤の維持発展に努めます。特に、次世代種雄牛として、「飛騨牛」の肉質を損なうことなく体積や種牛性の改良を目指した種雄牛造成、更に高能力種雄牛である「白清85の3」の後継種雄牛の造成に取り組むとともに、おいしい牛肉の開発および「飛騨牛」らしさを評価する指標探索研究等を推進し、育種改良への活用を目指します。

また、現在活躍中の種雄牛「白清85の3」、「利優福」、「花清国」等の有効利用とともに、新たに造成された種雄牛の改良増殖面での活用を推進します。

2) 乳牛の改良

乳用牛群検定および牛群審査による雌牛の能力把握と遺伝的能力評価の高い種雄牛精液を利活用して、産乳能力が高く体型に優れた牛群改良を進め、その牛群から採取した雌雄判別胚を県内酪農家に供給し、県内乳用牛の能力レベルアップと改良スピードアップを積極的に支援します。

また、高泌乳牛の健全なルーメン発酵を促す飼養管理技術を確立することにより改良効果が十分発揮できるように飼養管理面から支援します。

3) 高能力種豚集団への育種改良とその維持、増殖

特徴あるおいしい豚肉を安定生産するために必要なデュロック種系統豚「アイリスナガラ」、筋肉内脂肪交雑量を高くする遺伝領域を固定したデュロック種「ボーノブラウン」、発育の良い大ヨークシャー種「ナガラヨーク」の3種豚群について、更なる高品質化をめざした育種改良を推進するとともに、その維持増殖に取り組み、県内養豚農家に種畜及び人工授精用精液を供給します。

4) 鶏の育種改良

「奥美濃古地鶏」原種鶏の育種改良を進め、肉用鶏は肉質向上による高品質化を、また卵用鶏では卵質向上による高付加価値化を目指すとともに、種鶏やコマーシャル鶏供給により生産基盤の安定・強化を支援します。

また、消費者ニーズが高い有色卵生産に応えるため、(独)家畜改良センター岡崎牧場、県内育種会社と連携・分担した国産赤玉高品質鶏の開発を進め、県内民間孵化場と連携し普及を目指します。

(2) 畜産新技術の開発

1) DNA解析を利用した新たな育種技術の開発

種雄牛選抜・飛驒牛や豚の生産性・経済形質について、DNA解析手法を利用した染色体領域の特定による新しい育種手法の開発を目指し、(社)畜産技術協会附属動物遺伝研究所や(独)農業生物資源研究所との共同研究を推進します。

奥美濃古地鶏では、地鶏肉の食味性や発育性の改善を目指し、(独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所との共同研究に取り組みます。

2) 飼料用米を利用した自給飼料多給型畜産に関する試験研究の推進

乳牛や飛驒牛など大動物では飼料用米や稲発酵粗飼料の消化性や栄養価等の飼料特性を解明するとともに、国産飼料利用率50%以上を目指した飼料米

給与法の開発に(独) 農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所との共同研究により取り組みます。

豚では、飼料用米を給与した高品質豚肉の生産技術について山形大学等との共同研究に取り組み、農家段階での実証試験を行います。また、肉豚用の配合飼料にタンパク質含量の少ない飼料米を混合することにより、糞尿中への窒素排泄量を抑制する試験を開始します。

鶏では、飼料用米を給与した地鶏肉の高付加価値化につながる給与技術について東北大学等との共同研究に取り組み、農家段階での実証試験を行います。また、卵用鶏および卵用奥美濃古地鶏における飼料用米給与方法の確立試験を行います。

3) 受精卵移植を利活用した技術開発

雌雄判別精液を活用した雌胚の効率的な生産技術を確立することにより、高能力乳用牛の雌受精卵数を確保し、県下の乳用牛の効率的な改良を支援します。

4) 遺伝情報と血中タンパク質を指標とした肉用牛の新たな肥育技術の開発

血中のタンパク質(肥育マーカー)を測定することにより、肥育中に屠畜時の枝肉成績を予測するシステムを開発するため、近畿大学等を中心とした共同試験に取り組みます。

(3) 資源循環型社会への対応

堆肥の流通促進と畜産施設の脱臭対策として、アンモニアリサイクラー回収液の肥料取締法への公定規格改正を実現するとともに、同リサイクラーを用いた高付加価値液肥製造技術の開発を行うことにより本装置の普及を推進し、環境問題に対応しながら地域内における資源循環を可能とするシステムの構築に取り組みます。

3 産業界発展に寄与する技術支援

(1) 飛騨牛部門では、飛騨牛のさらなる銘柄化推進のため、肉用牛経営農家に対し、和牛の交配・飼養管理・繁殖管理指導等の技術支援を行います。

また、平成29年に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会を飛騨牛ブランド推進のための絶好の機会とするため、関係機関と協働し出品対策を支援します。

(2) 酪農部門では、優良乳用牛雌胚(受精卵)の供給や性判別技術を提供するとともに

に、飼料分析を活用した高度な栄養管理や適正な飼養管理等、生産性技術の向上を支援します。

(3) 養豚部門では、県産豚肉の資質向上に結びつく豚人工授精事業の推進やデュロック種の生産現場での技術指導を行います。更にぎふ清流国体ブランド研究の成果を踏まえ、良質豚肉生産基盤の構築を図り、県産豚肉のブランド力の向上に寄与します。

(4) 畜産環境対策部門では、臭気対策を中心とした農家からの相談に、経営にも配慮した技術指導を行います。

(5) 養鶏部門では、奥美濃古地鶏のブランド化の推進に努めます。また、採卵及びブロイラー経営農家の生産性向上に結びつく質の高い飼養管理技術の指導を行います。更に、養鶏関係団体・企業からの技術相談にも積極的に応じます。

(6) 飼料部門では、飼料の品質向上を支援するため飼料分析を実施するとともに、自給飼料の増産や有効利用を図るため、飼料作物品種比較試験や除草剤適応性試験に基づいた飼料作物生産技術の指導を行います。

4 研究成果の発信

(1) 研究成果の発信

研究成果は、学会や研究会へ積極的に発表するとともに、産業界や県民等にかかれた発表会を通して情報発信します。

また、マスメディアの更なる活用と、「研究所通信」及び研究所ホームページにより、リアルタイムで質の高い情報発信に努めます。

(2) 優良種畜・精液及び受精卵の供給

種畜の育種改良を推進し、研究成果として優良種畜・精液及び受精卵を農家へ配布します。